

姥沢右俣

一九七八年九月三日

◆天気(曇)

この沢は大倉川の支流の一つで、谷地平へ下る途中左手に見ることが出来る。私達三名は谷地平小屋にて小休止したのち、ワラジをつけて出発する。最初から単調な沢で、二〇分位歩くと一・五段位の滝が現われるが、あとはまた平凡である。しかし、イワナや山菜には恵まれている。一〇時四五分沢終了。一五分で登山道に出る。

(記・)

(タイム)

谷地平小屋九・二〇―沢終了一〇・四五―登山道一
一・〇〇―姥ヶ原一・一一

姥沢左俣

一九七八年九月三日

◆天気(曇)

姥沢左俣には滝がなく、単調な沢であった。大倉深沢とよく似た感じで、フキが多く、イワナの姿もたくさん見かけた。沢の終わりからやぶごき二五分くらいで大倉深沢へ出る。

(記・)

(タイム)

遡行開始九・一〇―沢終了一〇・三〇

鷲ヶ沢(下降)

一九八〇年十月十二日

◆天気(曇)

浄土平から駕籠山稲荷を経由して鷲ヶ沢まで歩く。十月も半ばとなり紅葉がきれいだ。登山道が鷲ヶ沢に突き当たったところには三つの小滝(五段・三段・四段)がある。そして登山道は沢の中に消えている。良く見ると石に黄色いペンキで「これより四〇〇段沢下り」と書かれていた。

一五分位下ると登山道が沢より左方にそれていく。この下はすっぱり切れ落ちた滝。濃いガスがかかっている。落差がわからず不気味である。慎重に右岸を捲きながら

